

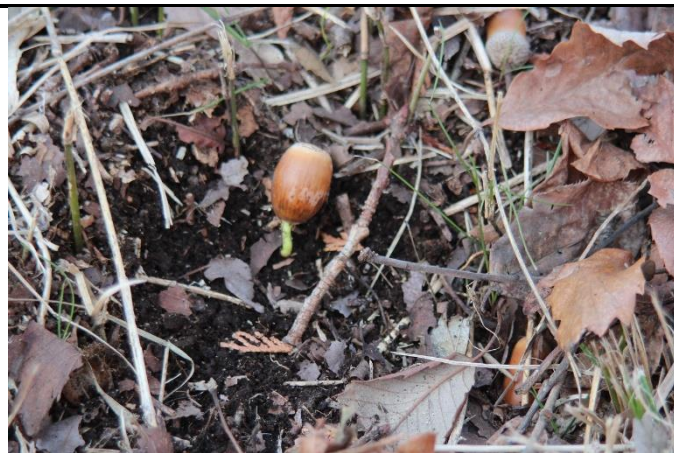
活動報告書

団体名：NPO相模原こもれび

活動場所	近郊緑地特別保存地区「木もれびの森」活動地		記録者	白川 泰嗣
活動日時	令和6年2月28日(水) 9時00分～12時00分	天気	晴れ 12.0℃ 33%	
参加者	安達、新井、開沼、川口、黒岩、白川、田中、中尾、西原、平野、藤井、本田、松浦			計13名
活動内容	森林保全活動			
使用道具	手鋸、ナタ、ウインチ、けん引ロープ、滑車、クサビ、カケヤ(木槌)			
機器操作者	刈払い機		チェーンソー	
	中尾		安達、川口、黒岩、西原、平野、本田	
区域	A地区(植生調査地)			
作業内容	①林床整理、②下草刈り、③枯損木の伐木			



テープを巻いた立ち枯れした木に、ロープをかける



足元では、どんぐりが発芽していた



下草に覆われてしまう前に発芽したどんぐりを採取する



ポットに植え替えて、植樹苗として大切に育成管理する

次回の予定：定例活動9:00～
 3月2日(土) イヌシデ広場集合
 3月9日(土) イヌシデ広場集合
 イベント：
 3月2(土)～3(日) 大野台公民館祭り
 4月20日(土) 2024年度通常総会
 ☆ボランティア募集・経験不問☆
 第1土曜、2土曜、3日曜、4水曜の中
 から好きな日の午前に参加可。活動日
 の朝9:00前に長袖で来て下さい。

報告事項・トピックス
 ●前回に引き続き、植生調査地の枯損木の伐木を行った。広葉樹は枝別れして広がるので間伐する際に「かかり木」となりやすく、都度作業を止めて対策を話し合い、チェーンソーワークやロープワークを駆使して対処した。
 ●足元ではコナラのどんぐりが発芽し始めており、密集した実生苗を間引きつつ、ポットに植え替えて植樹苗として育成管理するために手作業で丁寧に採取した。人間が種子や苗を散布する際には、同じ地域の実生苗を植樹することで遺伝子攪乱を抑えることができる。萌芽更新も有効な手段である。
 ●およそ300年とまだ歴史が浅い薪炭林として形成された里山の生態系の成り立ちについて調査をしながら、森林保全活動を自問していきたい。以上